

No.	視点	課題	改善の方向性	5つの提言との関連
1	授業づくり 問題・課題 授業者	【①問題場面の把握】 のこととして捉えていない。 主かせるという意識が低い。	解きたくなる問題の設定 ・子どもの生活場面や思考に沿った問題を設定する。 ・図やグラフなどで視覚に訴え、問題場面を確実に把握させる。	
<p>学力を育む</p> <p>授業をつくる!</p> <p><「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示></p> <p>○算数・数学の授業は、問題解決への興味・関心や必要感をもたせることが大切です。生活場面に即した問題や知的好奇心に訴える問題など解きたくなる工夫をするとともに、既習事項と関連させながら解決への見通しをもたせましょう。一人一人に課題をしっかりとつかませることが問題解決への意欲につながります。</p> <p>と集団解決)と「考えさせるべきと 教えることと考えさせること ・本時で考えさせたいことを精選し、教えるべきことはきちんと教える。</p> <p><「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫></p> <p>○展開の場面では、考えを広めたり深めたりする言語活動の充実が大切です。自力解決の場面では自分の考えをノートに書かせて整理させるとともに、集団解決の場面では式や図、表などを使って数学的に自分の考えを説明させることによって、学習内容の確かな定着を図りましょう。互いの考えのよさに気付かせる学び合いの場をつくることで、学びの質が高まります。</p> <p>置いた「練習台」の場面を設定する。 ・集団解決では、子ども同士の言葉で理解させる。 ・どのように練り合わせるのか、あらかじめねらい</p> <p><「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定></p> <p>○本時のねらいが達成できたか、終末では子どもと一緒に確認することが大切です。適用問題により本時のねらいとした学習内容が身に付いたか確認し、個に応じた指導を行うことで、確かに「わかった」という実感をもたせましょう。本時の学習についてねらいに立ち返って振り返らせることで、学んだことをしっかりと定着させることができます。</p> <p>教科書には多くの教材研究が載っていますが、その前の学習指導要領の読み込みを大切にしたい。 ・教える方法ばかりに気を取られて、教える内容の押さえが弱い。 ・子どもの実態の押さえが弱い。</p> <p>授業に生きる教材研究の充実 ・教材研究は各自指導要領から始める。 ・学力調査問題を解くために必要な学力を支える要素を、教材研究を通して明らかにする。 ・子どもが数学的な用語を使ってまとめられるよう意識して指導を行う。 ・「数学的な考え方」を身に付けられるところまで見通した教材研究を行う。</p> <p>【5つの提言】 ・5つの提言をもっと徹底させる必要がある。</p> <p>5つの提言の自校化と実践化 ・5つの提言の自校化を図り、具体的実践に結び付ける。</p>				
2	算数・数 経営 教科主	経営が弱い。 師主導である。 提言や配布物が生かされていない	算数・数学科経営の充実 ・4月に算数・数学科の経営方針の確認し、モデル授業により自校の学習の進め方や板書のルール等の理解を図る。	
<p>学力を定着させる</p> <p>環境をつくる!</p> <p><算数・数学科経営の質を高める></p> <p>○算数・数学の指導の在り方について、4月に全職員で共通理解を図ることが大切です。その学年で身に付けさせるべき基礎・基本と指導の系統性を確認し、授業づくりや習熟を図る学習などに全校体制で取り組みましょう。子どもの実態を踏まえた具体的な目標と手立てを設定し、全ての教室で実践することで、学習したことがしっかりと積み上げられていきます。</p> <p>学習する場がない地域もある。 内容)授業がかみ合っていない。 オン等への対応)</p> <p>授業と家庭学習の特性を踏まえた効果的な循環 ・放課後学習や週末、長期休業中の学習できる環境をつくる。 ・家庭学習と授業、それぞれの学習の特質を理解した上で循環を工夫する。 ・予習重視の家庭学習も一つの方法である。 ・「反転授業」などの新たな工夫も取り入れる。 ・生活習慣の定着も含めて、「切り替える力」の大切</p> <p><家庭学習の質を高める></p> <p>○家庭学習への意欲を高めるためには、授業と関連した課題を工夫し、取り組んだことを授業の中に生かし、認めることが大切です。また、集中して取り組める時間と場を確保するため、スマホやテレビなどのつきあい方を考えさせるなど、家庭と協力して落ち着いた学習できる環境をつくりましょう。自律的な生活習慣を確立することが、学力向上の基盤となります。</p> <p>市内での地域でも同じような指導を行う。 ・中学校区ごとに課題分析と対策を行う。 ・顔をつきあわせての引き継ぎや打合せを行う。 ・教科研究の目標や計画等を、小中で交換する。</p> <p>実効性のある小中連携の確立 ・学力向上算数・数学研修会、指導主事学校訪問 学力向上研究指定校事業、学力向上対策協議会 ・学力向上マンパワー活用事業、 学力サポートプログラム事業 ・学び支援コーディネーター等配置事業 他</p>				
3	家庭学習 実・家庭 連携 研究主 学級担 保護	学習する場がない地域もある。 内容)授業がかみ合っていない。 オン等への対応)	授業と家庭学習の特性を踏まえた効果的な循環 ・放課後学習や週末、長期休業中の学習できる環境をつくる。 ・家庭学習と授業、それぞれの学習の特質を理解した上で循環を工夫する。 ・予習重視の家庭学習も一つの方法である。 ・「反転授業」などの新たな工夫も取り入れる。 ・生活習慣の定着も含めて、「切り替える力」の大切	家庭学習の充実
4	教員の研 小中連携 管理	授業は元々が話し合いに主 ペーパーで済ませている。 小中連携の系統が捉えられていない。	実効性のある小中連携の確立 ・市内での地域でも同じような指導を行う。 ・中学校区ごとに課題分析と対策を行う。 ・顔をつきあわせての引き継ぎや打合せを行う。 ・教科研究の目標や計画等を、小中で交換する。	
5	教育行政の 指導・支援 教育委員会	【教員の指導力向上】 ・授業力向上に向けた教育行政の支援が必要である。 ・今後、みやぎ版の算数・数学の授業スタイルが求められる。 【地域の実情に応じた学びの場の確保】 ・被災地では未だ学習する場所の確保が課題である。	直面する課題に対応した学力向上対策 ニーズに対応した研修機会の提供 地教委と連携した学びの場の提供	